

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和6年度 第4号
令和6年9月25日発行
＜発行・編集＞
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
（上越市立直江津東中学校内）
TEL：025-543-2729
FAX：025-543-4150
E-mail：higashi-cs@jorne.or.jp

「キャリア教育」を中核とした生き方教育の推進

＜キャリア教育の視点と直東学園子育て目標との関連（図）＞

直東学園では、「地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども」を子育て目標としています。そして、キャリア教育を中核にした生き方教育を、子どもの自立に向けて大切な教育活動ととらえ、取り組んでいます。

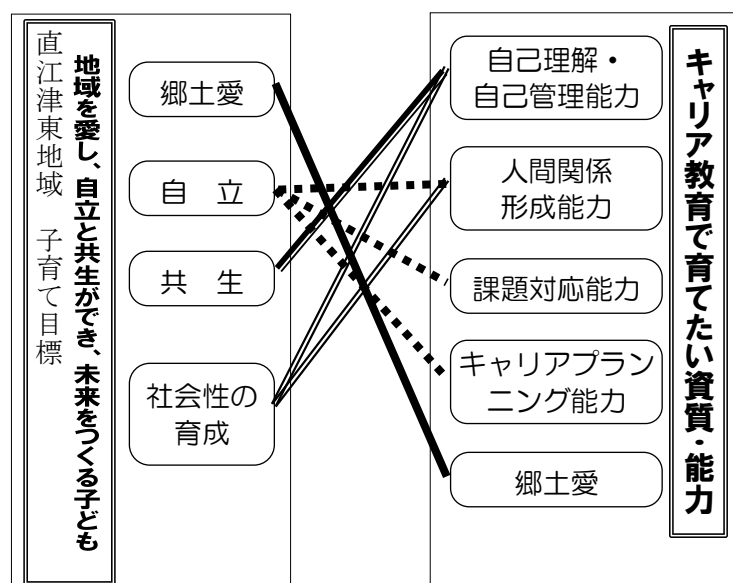
「キャリア教育」は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すことを目指し、育てたい資質・能力として、5つの視点から取組を進めています。これらの5つの視点は、右の図のように、直東学園の子育て目標と密接に関連しています。

キャリア教育というと、職業教育や進路指導と受け止められがちですが、直東学園では、あえて「キャリア教育を中核にした生き方教育」とし、一人一人の子どもの生き方を重視した教育の推進を目指しています。

直東学園の各校の代表者で組織されたキャリア教育部会では、地域の教育資源を生かした教育実践について、定期的に情報交換をしています。

また令和2年度から、「自分の成長」や「考え方の変遷」を振り返られるキャリア・パスポートに取り組んでいます。これは、中学校3年生まで持ち上がっています。

令和5年度末にキャリア・パスポートの改定を行いました。これまで、年度始め・年度終わりに記入する形式に加えて、学期ごとに「めあて→振り返り」できる形式を追加しました。廊下などに掲示でき、めあてを身近なものとするができます。



＜改定されたキャリア・パスポート（6年生の一部）＞

＜1学期＞

（学習面）めあて	【表面】 各学期のめあてを記入します。
（生活面）めあて	
（家庭や地域、習い事、資格、好きなこと）	

【裏面】
各学期のめあてをふりかえります。

学校・学年によって、従来の形式と新形式を選択して活用します。

北諏訪小学校の取組

1年生：保倉小の1年生と一緒に動物とのふれあい遠



足へ。新しく
加わった仲間
に対する5人



の想いを話し合いながら活動が進みます。

2年生：地域の農家さんと触れ合い、連日畑の観察。収穫の駆引き相手の野生動物たちに一つ目のスイカをやられたことから、明らかに未熟な二つ



目のスイカだけど…みんなで食べよう！と決定。白く酸味のあるスイカを味わう学校ならではの活動でした。

3年生：地域の宝はなんだろう？と探し始めている3年生。桜の学校として、桜のことも詳しくな

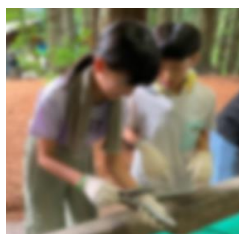


ろうと、勉強会に参加しました。

4年生：地域の方から飯田川の昔と北諏訪地区の子供たちの関わりを教えてくださいました。人と川との関係をさらに追究します。



5年生：自分で釣った魚を捌き食す、自分の腰まで埋まる水量の源流に挑む、体験から得る気持ちの機微を今後の学びにつなげます。



6年生：戦争という事実と平和への歩みを学ぶ中で、人々の思いや願いを受け取ってきています。果たして今は平和なのか積み重ねた学びを基に…今後を考えます。



保倉小学校の取組

保倉を元気に!

今年の6年生は、大好きな上越市や保倉の地域がもっと元気になったらいいなと思い、どうしたらいいかを考えています。保倉地域のいいところは自然が豊かで、静かで、住みやすいところです。たくさん人が集まると元気になると思い、上越市や保倉地域のいいところをアピールしたチラシを作りました。それを修学旅行先の埼玉県の道の駅や東京にある雪国商店に置いていただき、新潟や上越のことを知ってもらうようにしました。また、浅草では、外国人の旅行客に、新潟についてアピールしました。



保倉地域に来ていただくために、楽しいイベントも考えています。10月26日(土)の午後、保倉公民館で、『ほくらまつり』をします。保倉地域の方々だけでなく、直東学園内の校区のみなさんにもぜひ来ていただき、楽しい時間を過ごしてもらえるように計画中です。

有田小学校の取組

【低学年】～人間関係形成、自己管理～

1年生は、入学後の約2週間、全校のお兄さん、お姉さんから小学校での生活の仕方を教えてもらったり、1年生同士で遊んだりしました。また、級外の先生から、楽しい自己紹介をしてもらうなど、いろいろな人とかかわりました。

2年生は、野菜を育てています。自分で野菜の育て方について調べながら取り組んでいます。地域の方に教えていただいたり、仲間と活動したりする楽しさを感じています。



【中学年】～共感性、情報活用～

3年生は、地域の「すてき」を発見する活動を行っています。地域を探検したり、地域の方から話を聞いたりして理解を深めています。

4年生は、『プラザ交遊記』（総合的な学習の時間）で、リージョンプラザ上越をフィールドに活動しています。働く人々から設備の案内を聞いたり、実際に設備を利用したりしながら、自分にとって「リージョンプラザ上越はどんな場所か」を考えています。



【高学年】～自己管理、協働性～

5年生は、稲作体験を通して、米作りや農業の課題を考えたり、これからの食生活について見つめ直したりする活動に取り組んでいます。収穫したお米をどう活用するかは、話し合いで決定する予定です。

6年生は、「共に楽しむ」活動をつくり出すために必要なことや、人とのより良い関わり方について活動を通して学んでいます。様々な分野のゲストティーチャーと交流し、「共に楽しむ」活動をつくるための考え方を広げています。



春日新田小学校の取組

行事や、生活科・総合的な学習の時間など、体験を通して、キャリア教育で育てたい資質・能力を育んでいます。

■全校「縦割り班（なかよし班）活動」

体力テストやウォークラリー、なかよし班遊びの異学年交流の場面で、互いを思いやりながら活動を進めています。



■1年生「花を育てる」

アサガオ以外にも、心を込めていろいろな花の世話をする中で、自他の成長を感じ、友だちと交流を深めていました。

■2年生「わたしたちの野菜畑」

野菜に寄り添い、懸命に世話をする中で、野菜の成長や収穫の喜びを感じました。また、収穫した野菜を持ち帰り、家族に喜んでもらうことで、達成感や充実感を得ていました。

■3年生「きずな探検隊」

地域の店や会社の見学や、講師の方から学校や地域の歴史を教えていただくことで、お宝を見付け、地域のよさを感じています。

■4年生「きぼう学年ふるさと盛り上げ隊」

関川河川敷をコスモスでいっぱいにし、地域の方に喜んでもらいたいと考えています。そのために、アルミ缶を回収し、その収益でコスモスの種を買って、種まきをしようと計画しています。

■5年生「妙高自然体験教室」

妙高アドベンチャー、キャンプファイヤー、オリエンテーリングなどに取り組みました。相手を思いやり、助け、励まし合いながら活動することで信頼関係を深めました。

■6年生「春新を照らす64人の力」

最高学年として、下学年に積極的にかかわったり、多くの役割を担ったりしながら、リーダー性を高めているところです。



直江津東中学校の取組

【仲間づくり遠足(1年生の取組)】

5月31日、妙高青少年自然の家に行きました。妙高アドベンチャーやレクなどを通して、入学してからあまりかかわることがなかった生徒どうしでかかわる、よい機会となりました。男女関係なくかかわる様子や、班で意見を出し合い考える様子があり、今回の遠足の目的である、「仲間づくり」を達成できたと感じています。



【職場体験学習(2年生の取組)】

上越市内の事業所46か所で2日～3日間の職場体験学習を行いました。

体験活動を通して、働くことの意義や大変さ、仕事に向かう心構えなどを学びました。また、各事業所の特色ある仕

事を間近で学び、体験することで、地域を支える職業に興味・関心を持ち、今後の進路選択に役立てる活動になったと思います。



【高校説明会(3年生の取組)】

6月28日、7月2日・10日、上越地区の12校の先生方に来校していただきました。多数の保護者の皆様も参加されました。生徒は真剣な表情で説明を聞き、メモを取る姿も見られました。今後の進路選択、決定の一助になったことと思います。各学校でもオープンスクール等が行われます。実際に受検(受験)・進学を考えている学校については、積極的に参加するように勧めています。実際に学校に行き、見て聞いて、体験することで、近い将来のことについて前向きに考えてほしいと思います。



直東学園の取組に望むもの

三村隆男(早稲田大学)

皆さんこんにちは。早稲田大学の三村隆男と申します。直東学園運営協議会の高橋邦夫様からご依頼をうけ、「直東学園ニュース」に登場させていただきました。2012年に上越市にコミュニティ・スクールが導入された中で、直東学園がさらに進化した形で、5つの小中学校で地域の集合体として子どもたちの教育に携わり続けている姿には敬意を表します。私も直東学園の初期の段階で、小中学校を訪問し、キャリア教育のお話もさせていただきました。こうした地域を挙げたキャリア教育の実践について研究を進めてきたものとして今後の直東学園の目指すところについて一緒に考えさせていただければと思います。

ひとつ参考になる実践として、米国カリフォルニア州で20年続いている実践を紹介します。Y-PLAN(ワイ・プランと呼びます。Youth・Plan, Learn, Act Nowの頭文字をとりました。「若者と-計画し、学び、今行動する」との意味で、小・中・高校生が街づくりに参画するというもので、実際に小学生が市の2040年総合計画に参加し、公の文書として提案書を提出しています。Y-PLANの基本姿勢は、児童生徒を「子ども扱いしない」です。例えば、工場見学などで「子どもに分かる言葉で説明してください」等のお願いをすることが多いですが、Y-PLANでは、「仕事のリアリティが伝わるお話をしてください。子どもがわからない言葉を使っても結構です」とお願いします。結果的にその方が子どもに響くのです。Y-PLANでは、大人と子どもを対等に位置づけます。もちろん、発達段階や知識量は大人が優れていますが、一方で子どもは大人が失ったものをもち合わせていると主張します。だから子どもには街づくりに参加する特別な資格があるとみなし、子どもと対等な立場で街づくりに取り組みます。

直東学園の取組が目指すところは何でしょうか。Y-PLANのめざすところは、単純で「地域を変える」です。大人と子どもが対等に街づくりに取り組むとは、大人が子どもの環境に入り、子どもが大人の環境に入ること、結果的にそこに地域を変えるエネルギーが生まれるという考え方です。これは「変化の理論」として、カリフォルニア州立大学バークレー校のマッコイ先生の理論※です。

なぜキャリア教育で地域を変える必要があるのでしょうか。それは、大人と子どもが協働して変化した地域で、今度は大人としてキャリアを続けるのは、協働している子どもたち自身だからです。子どもたちが将来自分らしい生き方ができる地域を、今まさにキャリア教育を通して、大人と子どもが取り組む諸活動を直東学園が創出しているのです。子どもと対等に協働し、キャリア教育の取り組みを続けてください。直東学園の取組が日本版Y-PLANとして米国に紹介できる日もそう遠くはないと期待しています。※マッコイ先生が日本で行った講演会の案内が以下のURLでご覧になれます。

[https://jssce.jp/wp-](https://jssce.jp/wp-content/uploads/fb9b744c2717bdaab8825765939bb08c.pdf)

[content/uploads/fb9b744c2717bdaab8825765939bb08c.pdf](https://jssce.jp/wp-content/uploads/fb9b744c2717bdaab8825765939bb08c.pdf)